

# で あ い こ う か

甲賀の里山でモノづくり 場所をつくり 文化をつくる

川端 健夫さん 川端 美愛さん

小高い丘の上に佇む築90年の木造校舎を改装したギャラリー—mamma mia&patisserie—MiA。遠方からも大勢のお客さんが訪れる人気の施設は、今年“甲賀ブランド”に認定されました。廃屋のようだった木造校舎を改装して移り住み、モノづくりをはじめ10年。木工作家の川端健夫さんと、菓子職人の美愛さんご夫妻にお話を伺いました。



### ■mamma miaを通して甲賀を発信

私たちは地域の方々に支えていただいています。この感謝の気持ちを地域にお返しできないかと考えていた時に“甲賀ブランド”のお話をいただきました。mamma miaは、今では雑誌で紹介していただいたり、首都圏のデパートなどで企画展をさせていただく機会があります。その読者やお客様が、mamma miaを通して甲賀を知り、里山の魅力を感じ、この地を訪ね歩いていただくことで、地域のPRや活性化に少しでも貢献できればと思っています。

### ■地域との繋がり

菓子工房では、地元牧場の新鮮な牛乳や宮ベリーなど地産の果物を使い、木工房でも甲賀の木材を利用するなど、地域に根差したモノづくりをしています。ギャラリーでは信楽焼作家の展示会を開催することもありますし、音楽ライブや朗読会、ワークショップなどの企画を通じ、文化の発信にも力を入れています。今後より一層、地域の人やモノと繋がりを大切にしていきたいと思っています。

▼mamma miaの店内



この夏10周年を迎えたmamma mia。感謝の気持ちを込めて、これまでの10年を振り返りつつ、これからの10年を見据える企画展を開催されます。  
・「十年展」—10人の作家が出演— 8月13日~31日  
・「青木隼人さんライブ」 8月17日16:30~18:00  
問い合わせ  
mamma mia ☎/☎86-1552  
甲南町野川835 (甲南第三小学校近く)

## 佐伯チズさん思い出の地をたずねる

ドキュメンタリー番組撮影

美・生活アドバイザーとして活躍されている佐伯チズさん特集したドキュメンタリー番組・BS朝日「ありがとう」の撮影が市内で行われました。

母方の祖父母が住む甲賀で子ども時代を過ごしたチズさんは、約30年ぶりに訪れたという母校の大原



▲母校の教室で同級生とアルバムを懐かしむ

小学校で、再会した同級生と懐かしいアルバムを眺めながら思い出を語り合いました。恩師からの手紙には、思わず涙ぐむ場面も…。

この番組は、8月13日(水)22時からBS朝日で放送予定です。

## 炎高く火の粉舞い散る

七夕まつり手筒花火奉納

甲南町の矢川神社で7月7日、七夕まつりが開催されました。

子どもらが短冊に願いを込めた笹飾りの並ぶ境内では、甲賀手筒花火保存会の会員によって手筒花火が奉納されました。

花火の激しい炎は、夜空を焦がさんばかりに高く噴き上がり、火の粉が雨のように降り注ぐ様は勇壮そのものです。

「ハネ」と呼ばれる最後の場面で手筒の底が破裂し爆音が響くと、詰めかけた観客から大きな拍手と歓声を送られました。



▲火の粉が降り注ぎ勇壮な手筒花火

# 元気なまちかど



## 豊かな生き物を育む水田で

佐山小学校の環境学習

佐山小学校の4年生児童12人が7月1日、近くの水田で行われた「生き物調査」に参加し、環境学習を行いました。  
地元の小佐治集落では、水路を整備して水田内に生き物の生育場所を確保する取り組みが行われており、その生育状況を継続的に調査しています。水路を網ですくうと、メダカ、ザリガニ、オタマジャクシ、ドジョウなど、たくさんの生き物が確認されました。  
豊かな自然に囲まれた佐山地域ですが、初めての経験という児童もおり、網にかかった生き物を確認するたびに、子どもたちの大きな歓声が水田に響きました。



▲地元の方と生き物調査をする児童

## 骨のしくみに興味津々

みなくち子どもの森出張授業

みなくち子どもの森の学芸員による「骨の授業」が7月1日、綾野小学校の4年生を対象に開講されました。  
この日は、子どもの森が所蔵するタヌキやイノシシの標本に加え、滋賀医科大学から借り受けたヒトの骨格標本のレプリカも用意され、骨がずらりと並べられた机を囲んだ児童らは、実際に手に持ったり、覗き込んだりしながら、興味深そうに骨を観察していました。



▲ヒトの骨格標本を囲んで観察

## 信楽高原鐵道に歓声が戻った一日

たなばた竹宵の夕べ

雲井自治振興会主催の「たなばた竹宵の夕べ」が7月5日、雲井駅を会場に開催されました。  
信楽高原鐵道の早期復旧を願い、子どもたちや地域住民らが手作りした1200を超える灯籠の明りに照らされた駅前広場では、この日特別に回送された高原鐵道の車両をバックにコンサートや屋台などが催されました。  
また車内では、子ども向けの映画が上映され、地域の人々の賑やかな歓声が久しぶりに高原鐵道の車内と駅舎に戻った一日となりました。



▲多くの灯籠と人で賑わう雲井駅